

2008年10月14日
株式会社日立製作所

**ミッドレンジディスクアレイのラインアップに
最上位モデル「AMS2500」を追加し、全世界で販売開始**
同時に「AMS2000 シリーズ」全 3 機種を海外市場へ投入



最上位モデル「AMS2500」

株式会社日立製作所(執行役社長:古川 一夫/以下、日立)は、このたび、複雑なシステム設計や煩雑な運用管理を大幅に低減するダイナミックロードバランスコントローラをミッドレンジクラスとしては世界で初めて搭載するなど、ユーザーの使い易さを大幅に向上させたミッドレンジディスクアレイ「Hitachi Adaptable Modular Storage 2000 シリーズ」(以下、AMS2000 シリーズ)のラインアップに、トランザクション性能を約2倍に向上させたほか、サーバと接続する物理ポート数などの拡張性を最大2倍に向上させた最上位モデル「AMS2500」を追加し、10月15日から販売を開始します。

また今回、「AMS2500」を含めた「AMS2000 シリーズ」のラインアップ全3機種を海外市場にも投入し、全世界での販売を開始します。なお、海外市場においては、日立の100%子会社である日立データシステムズコーポレーション(本社:米国カリフォルニア州、CEO:小菅 稔)が、販売を担当します。

企業データが爆発的に増加する中で、業務アプリケーションも多様化し、システムの複雑化・高度化が進んでいます。また、システム全体のITリソースを有効活用するため、業務の変化に応じてアプリケーションやOS自体を自由に移動できるサーバ仮想化技術の活用が注目されています。このような状況の中で、ストレージシステム側も、サーバ側の環境変更に柔軟に対応し、通常の業務に影響を出さずに最適な運用を実現するとともに、システムの再構築や管理コストの低減が求められています。

「AMS2000 シリーズ」は、2005 年 7 月に発表した従来機の内部アーキテクチャを刷新し、「AMS シリーズ」のラインアップを一新した製品シリーズです。ダイナミックロードバランスコントローラを搭載したことにより、稼働中のシステム負荷の分散や性能を自動的に最適化できるほか、物理的容量、論理的容量の双方を自由に拡張できる機能^(*1)を提供します。そのため、サーバの仮想化などによる上位側の大幅なシステム環境変化にも、複雑な構成を意識せずに柔軟に対応できるだけでなく、今までミッドレンジクラスでの統合管理が進んでいなかったユーザーに対しても、容易にシステムが導入できます。

*1 本機能は、2008 年 12 月のサポート開始を予定しております。

今回、「AMS2000 シリーズ」のラインアップに、最上位モデル「AMS2500」を追加します。「AMS2500」では、サブシステムの HDD 搭載数を、「AMS2300」の倍となる最大 480 台(472TB)まで搭載可能になったほか、ファイバーチャネルなどの物理的な接続ポート数を最大 2 倍にするなど、システム環境の変化に対応できる柔軟性と高い拡張性を実現します。これにより、「AMS2000 シリーズ」の特長であるユーザーの設定負荷、導入コストを低減できるだけでなく、高性能・高信頼性かつ柔軟な拡張性を持つシステムを実現します。さらに、従来比で最大約 4 分の 1 にオペレーションの作業量を低減できる管理ツール Hitachi Storage Navigator Modular 2 の提供により、ユーザーの使い易さを向上します。

さらに、国内のミッドレンジ市場における一層の事業拡大を目指し、間接販売を強化するため、販売パートナー支援プログラムのメニューを拡充します。具体的には、ISV^(*2)との共同検証の実施を通し、販売パートナーに技術情報を提供するだけでなく、国内で初めて SNIA^(*3)に認定された技術者資格プログラムも、今回の「AMS2000 シリーズ」向けに提供します。

*2 ISV: Independent Software Vendor の略

*3 SNIA: Storage Networking Industry Association の略

今後は、2009 年度前半を目処に、現在エンタープライズクラスで実現しているボリューム容量仮想化機能「Hitachi Dynamic Provisioning」を「AMS2000 シリーズ」でもサポートします。この機能により、ユーザーによる複雑な容量設計が不要となることから、ストレージリソースの使用効率を最大化し、投資対効果のさらなる向上を実現していきます。

また、今回発表にあわせ、ストレージ管理ソフトウェアの機能強化を実施し、ストレージサービスのメニューを拡充します。ストレージサービスでは、ユーザーにストレージの稼働状況を定期的に報告し、稼働システムの性能面での問題発生を未然に防ぐ「Hitachi Storage Reporting service」をミッドレンジクラス向けに提供します。これらのハードウェア・ソフトウェア・サービスを組み合わせた最適なソリューションを、ユーザーニーズに応えるために、トータルで提供していきます。

■製品の価格・出荷時期(国内)

名称	概要	価格(税込)	出荷時期
Hitachi Adaptable Modular Storage 2100	ディスクアレイサブシステム ファイバーチャネル 4ポート サブシステム物理容量約 285GB～	286万 6,500円～	2008年 7月1日 (出荷開始済)
Hitachi Adaptable Modular Storage 2300	ディスクアレイサブシステム ファイバーチャネル 8ポート サブシステム物理容量約 285GB～	396万 6,900円～	
Hitachi Adaptable Modular Storage 2500	ディスクアレイサブシステム ファイバーチャネル 16ポート サブシステム物理容量約 285GB～	875万 9,100円～	2008年 10月15日
Hitachi Storage Reporting service	ストレージ稼働状況を 定期的に報告するサービス	10万 3,320円/年～	

■製品ホームページ

日立ストレージソリューション ホームページ
<http://www.hitachi.co.jp/storage>

■他社商標注記

記載の会社名および製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

■取り扱い事業部・照会先

株式会社日立製作所 情報・通信グループ
 RAID システム事業部 事業企画本部 製品企画部 【担当:阿部・加納】
 〒250-0872 神奈川県小田原市中里 322-2
 TEL:0465-49-1111(大代表) 内線 5777, 5419

以上

【添付資料】

「Hitachi Adaptable Modular Storage 2500」の製品仕様

項目		仕様
製品名称		Hitachi Adaptable Modular Storage 2500
最大容量 ^(*1)	SAS	188.5TB
	SATA	472.1TB
RAID レベル		RAID6/5/1+0/1/0
最大キャッシュ容量 ^(*2)		16GB/サブシステム
ホストインタフェース	Fibre Channel	最大 4Gbps [Optical] (8 ポート/コントローラ)
	iSCSI (1000Base-T)	最大 1Gbps [Copper] (4 ポート/コントローラ)
ディスクドライブインタフェース		3Gbps SAS
サポート ディスクドライブ	SAS	400GB (10 kmin ⁻¹) 146GB/300GB(15kmin ⁻¹)
	SATA	500GB/750GB/1TB (7.2kmin ⁻¹)
搭載可能 ディスクドライブ 台数	コントローラ筐体	—
	増設筐体	最大 15 台
	最大構成	480 台
デュアルコントローラ		標準搭載
モデル形態		ラックマウントモデル
電源入力		単相 200V
外形寸法 (W×D×H)mm	コントローラ筐体	483×649×174
	増設筐体	483×649×129
	専用ラック	610×1020×1916
省エネ法に 基づく表示	区分	i
	エネルギー 消費効率 ^(*3)	0.35

*1: 本容量は 1 テラバイト=10¹² バイトとして計算した場合の値です。物理容量です。

*2: 本容量は 1 ギガバイト=1,024³ バイトとして計算した場合の値です。

*3: 省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を省エネ法で定める記憶容量で除したものです。

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
